

日本都市計画学会

学会賞・功績賞・国際交流賞  
受賞一覧ならびに授賞理由書

2010 年年間優秀論文賞  
受賞一覧ならびに授賞理由書

(社) 日本都市計画学会

# 目 次

## 1. 学会賞

1) 受賞一覧 .....	1
2) 選考経過および各賞の対象内容 .....	2
3) 授賞理由	
(1) 石川賞 .....	3
(2) 石川奨励賞 .....	4
(3) 論文奨励賞 .....	5
(4) 計画設計賞 .....	9

## 2. 功績賞・国際交流賞

1) 受賞者一覧 .....	10
2) 選考経過および各賞の対象内容 .....	11
3) 授賞理由	
(1) 功績賞 .....	12
(2) 国際交流賞 .....	14

## 3. 2010 年年間優秀論文賞

1) 受賞論文一覧 .....	16
2) 選考経過および表彰対象 .....	17
3) 授賞理由 .....	18

## 日本都市計画学会 学会賞受賞者

(受賞者敬称略)

### <石川賞>

公民協調による大丸有のまちづくり ～エリアマネジメント・環境共生への取組み～

大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 会長 福澤 武  
特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会 理事長 小林 重敬  
一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会 理事長 伊藤 滋

### <石川奨励賞>

『社宅街 企業が育んだ住宅地』ほか一連の研究

社宅研究会

街角の小さな休憩・ふれあいスポット（「おやすみ処」）ネットワークモデル形成事業

～多機能のコミュニティ・インフラの形成に向けて

特定非営利活動法人 まち研究工房

### <論文奨励賞>

地域コミュニティを主体とした景観マネジメントに関する研究

～岐阜県白川村荻町を対象として～

白川村教育委員会 麻生 美希

再統一後のベルリンにおける都心改造に関する研究

一般財団法人計量計画研究所都市・地域計画研究室 太田 尚孝

地区交通計画におけるサイレント層に関する研究

国土交通省国土技術政策総合研究所 小嶋 文

協働のまちづくり事業制度の課題と可能性 -市民社会組織の成熟にむけて-

東京大学高齢社会総合研究機構 後藤 純

外観ルールに関する紳士協定に基づく和風の町並み景観整備に関する研究

惣司めぐみ

日本の工業都市空間における計画概念とその実践的展開に関する研究

-生産空間と生活空間の関係性に着目して-

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 野原 卓

タイ国への区画整理技術移転に関する実証的研究

社団法人日本モノレール協会 日野 祐滋

都市空間における防災対策の行動モデリングと制度設計への応用

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 廣井 悠

### <計画設計賞>

城崎温泉「木屋町小路・三十三間広場」プロジェクト

兵庫県豊岡市 市長 中貝 宗治

早稲田大学 教授 後藤 春彦

かめ設計室 羽渕 雅己

梵まちづくり研究所 吉田 道郎

## 日本都市計画学会

### 学会賞 選考経過

2011年（2010年度対象）学会賞は、会員が推薦した石川賞候補2件、石川奨励賞3件、論文賞候補1件、論文奨励賞候補10件、計画設計賞候補1件、計17件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全17名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、受賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、石川賞1件、石川奨励賞2件、論文奨励賞8件、計画設計賞1件の受賞が決定した。

---

### 各賞の対象内容

#### 石川賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

#### 石川奨励賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、今後の都市計画の進歩、発展に寄与しうる貢献をした個人または団体を対象とする。

#### 論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近（過去1年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

#### 計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

石川賞	
受賞者	<p>大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 会長 福澤武          特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会 理事長 小林重敬          一般社団法人丸有環境共生型まちづくり推進協会 理事長 伊藤滋</p>
作品名	<p>公民協調による大丸有のまちづくり          ～エリアマネジメント・環境共生への取り組み～</p>
授賞理由	<p>大手町・丸の内・有楽町地区（大丸有地区）のまちづくりは、近年のわが国の都市プロジェクトをあらゆる意味で代表するものであり、その功績および今後の都市計画に及ぼす影響はきわめて大きいものがある。1988年に地権者を中心とする協議会が発足して以降、常に官民連携が重視され、PPP、エリアマネジメント等を実践する先駆けとなってきた。また、「街づくり基本協定」（1994）や「まちづくりガイドライン」（2000年に制定され、その後随時改訂）を制定するなど、街の将来像について常に関係者が共通認識に立つ仕組みを整えている点も重要である。</p> <p>都市計画制度という点からみても、都市再生特別地区の適用や特例容積率適用区域の指定等、国が取り組む最先端の制度と常に連動する形で取り組んできており、わが国の都市計画制度の発展に大きく寄与してきたと言える。</p> <p>この他にも、駐車場設置に関する地域ルールやエリア循環バス等の交通システム、「環境ビジョン」の制定や「エコツェリア」等の環境への取り組み、さらには、「東京駅周辺防災隣組」等の防災・防犯活動など、都市計画に関わるあらゆる分野で先進的な試みを行い、発信を続けている。</p> <p>これらのハード及びソフトの事業内容だけでなく、取り組み活動そのものにも見るべき点が多々あり、日本の都市計画に与えた功績は非常に大きく、石川賞の授賞にふさわしいと判断された。</p>

石川奨励賞	
受賞者	社宅研究会
作品名	『社宅街 企業が育んだ住宅地』ほか一連の研究
授賞理由	<p>社宅街の建設と維持は、企業経営者からみれば会社の直接の利益と結びつきにくい巨大な支出であり、社員とその家族からみれば労働賃金以外の待遇である。ともすれば、経営者が経営上の効率を重視し、したがって簡易で劣悪な住環境を社員らにおしつけてきたように思われがちであるが、『社宅街 企業が育んだ住宅地』によって、それは必ずしも当たらないことが明らかとなった。</p> <p>この種の研究は、客観的な資料の入手が困難で、経営者側が編集した社史や限られた関係者へのヒアリングなど、従来、大きな制約があった。しかし、本書では、たとえば鉱業系社宅においては、旧帝大の冶金・鉱山学科から参加した実習生の実習報文を見いだして社宅街の実態を細かく把握するなど、貴重な知見を得るに至っている。本書に掲載されている図版は、出版の都合上、やや小さいといううらみが残るが、鮮明であり、資料性が高い。著者らのその後の研究活動も含め、石川奨励賞に値するものと判断する。</p>

石川奨励賞	
受賞者	特定非営利活動法人 まち研究工房
作品名	街角の小さな休憩・ふれあいスポット(「おやすみ処」)ネットワークモデル形成事業 ～多機能のコミュニティ・インフラの形成に向けて
授賞理由	<p>本事業は、街なかの沿道に存在する大小様々なデッドスペースを活用し、沿道に 150～100m 間隔で小さな休憩・ふれあいスポット(おやすみ処)のネットワークを整備しようという、市民活動型の事業である。埼玉県戸田市の中心部から活動を展開し、現在は、蕨市・川口市・鳩ヶ谷市にも活動の場を拡げている。超高齢化社会を迎える中で、きわめて重要なテーマに取り組んだ先導的なプロジェクトであるが、取り組みが先導的・先駆的であるだけでなく、平成19年の道路法改正への制度的反映や、自治体レベルの指針作りへの反映など、着実に成果を上げ、社会的な評価を獲得しつつある。こうしたテーマの研究と実践を、さらに展開・普及し、社会に定着させることは、本学会にとっても重要な課題であることから、単に業績を表彰するという意味だけでなく、こうした活動によって得られた有用な知見を広く社会に伝達するという意味においても、授賞に値する優れたプロジェクトであると評価する。</p>

論文奨励賞	
受賞者	麻生 美希
作品名	地域コミュニティを主体とした景観マネジメントに関する研究 ～岐阜県白川村萩町を対象として～
授賞理由	<p>本研究は、重要伝統的建造物群保存地区に指定され、世界遺産にも登録されている岐阜県白川村萩町を対象に、景観マネジメントの観点から保存に関する取り組みの変遷、農地等を含めた面的な集落空間構成とその景観に関する地域コミュニティの関わり、そして不動産所有からみる景観保全の課題を具体的に現地に入り込みながら、いわば参与観察的に論を展開した論文である。伝建地区や町並みに関する既往論文はすでに少なくないが、本研究の特色は、世界遺産登録後に急激に観光地化した現在の状況を鑑みて、その今後のビジョンを描く世界遺産マスタープラン策定に実践的に貢献している点である。</p> <p>このように、実際に進んでいる政策を客観的な視点から観察して論文として完成させる一方で、現実の施策形成にも具体的な貢献をしており、論文奨励賞としてふさわしいものと判断する。</p>

論文奨励賞	
受賞者	太田 尚孝
作品名	再統一後のベルリンにおける都心改造に関する研究
授賞理由	<p>再統一後のベルリンの都心改造を紹介する文献は少なくないが、本研究のように系統だって全体像を示した論文はないであろう。多くの文献、一次資料を調べ、また都心改造に関わる関係者へのヒアリング（計 33 件）を行い、まとめている点からも、実証への努力がみられ、またキーパーソンであるハンス・シュティマン氏への直接インタビューなどオリジナリティも十分にみられる。本文の中身はふんだんな図解入りで、読みやすい読み物（モノログ調）として記述されている。ただし膨大な原語文献を駆使してはいるがその位置づけ、ヒアリングのデータ根拠等は第三者にわかりにくい点が難である。また、計画論としての特色、意義、問題点の提示に候補者独自の考察がもっとあってもよかったであろう。しかしながら本研究によってベルリンの再統一後の都心改造を背景とともに詳細に新しい資料やインタビューにて新鮮な情報が多く提供されている価値は高く、論文奨励賞にふさわしいものと考える。</p>

## 論文奨励賞

受賞者	小嶋 文
作品名	地区交通計画におけるサイレント層に関する研究
授賞理由	<p>計画立案に関するアンケートに回答しない“サイレント層”の特徴を丹念な追跡調査によって分析した意欲的な研究である。特に交通計画における実際の社会実験の前後で地域住民が態度を変化させる様に焦点を当てた点に特徴があり、今後のサイレント層のマネジメントに生かせる記述がなされている。たとえば「社会実験後の段階になると、サイレント層には非サイレント層よりも対策案を許容している人が多い」という結果は、社会実験の実施の意義を担保する内容となっている。一方、サイレント層が生ずる原因の一つとして「意識調査がどのように意思決定に反映されるのか分からないために調査に回答しない人がいることが分かった」と記した上で、これについてはサンプル数が少ないため今後の検討が必要である旨を率直に述べている。このように今後の研究に対する意欲も大いに感じられる。以上要するに、本研究は論文奨励賞に十分に値するものと判断する。</p>

## 論文奨励賞

受賞者	後藤 純
作品名	協働のまちづくり事業制度の課題と可能性 -市民社会組織の成熟にむけて-
授賞理由	<p>本論文は、「協働のまちづくり事業制度＝市民社会組織が地域社会において主導的に課題解決に取り組む事業を支援する制度」について、①活動助成制度、②事業委託制度、③事業提案制度の3タイプの代表的事例を丹念に調査・検討することにより、同制度が機能する条件としての1)公共政策としての合理性の確保、2)市民社会組織の自由な発意とその実現の保障、3)市民社会組織の主体形成の3点から考察したものである。</p> <p>これまでも自治体による住民主体のまちづくりへの支援制度に関する関連研究は多く見られるが、各自治体の創意工夫により展開されてきた同制度について、①～③の3種の制度を1)～3)の明確な枠組みの中で横断的に比較整理・考察することによって、個々の事例が有する優れたしくみを抽出するとともに、同制度の発展可能性を市民社会組織の主体形成の点からの確に論じている。これらのことから、本論文は論文奨励賞に値すると判断する。</p>



論文奨励賞	
受賞者	惣司 めぐみ
作品名	外観ルールに関する紳士協定に基づく和風の町並み景観整備に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、伝建地区のような優れた歴史的建造物の集積やストックが見られない、歴史的資源をすでに喪失したりそれらの集積が希薄化した地域、あるいは、何らかの根拠やよりどころをもって地域の景観形成をこれから新たに図っていきたいと考えているような地域、すなわち日本のほとんどの市街地や住宅地が抱えていると言えるテーマに果敢に取り組んだ点が評価できる。</p> <p>また、事例として取り上げている先斗町を除く3地域は、歴史的景観に関する専門家からは、そのオーセンティシティに対するこだわりのなさから、やや冷ややかに見られている部分もあるが、その取り組みを積極的に評価し、今後のよりよい景観形成のための先例として見ようとしている点も重要である。</p> <p>そもそも困難な課題設定に取り組んだ意欲作として、論文奨励賞を授与し、さらなる研究の発展を期待したい。</p>

論文奨励賞	
受賞者	野原 卓
作品名	日本の工業都市空間における計画概念とその実践的展開に関する研究 -生産空間と生活空間の関係性に着目して-
授賞理由	<p>本論文は、人口減少時代、経済変動時代を迎えて、都市再編にとって重要な空間と位置づけられる工業都市空間を、特に生産空間と生活空間の関係性に注目して論じたものである。</p> <p>第一部として工業都市空間における計画概念を、産業革命以降について俯瞰した上で、日本の工業都市空間のそれをまとめている。それに続く第二部では、京浜臨海部に焦点を定めて、戦前戦後の地域形成とそれにまつわる計画概念、構想を整理した上で、質的転換を吟味し、生活空間の形成や展開までを実証的に検証している。それぞれが内容として重厚なものであるが、最後に新たな「生活空間」への考え方としてまとめ上げることで、工業都市空間を生活に関わる都市空間として捉え直し再構築するという目論見を達成している。</p> <p>本論文は優れた到達を示しており、今後への展望は示唆に富むものであり、論文奨励賞にふさわしいものと評価できる。</p>

**論文奨励賞**

<b>受賞者</b>	日野 祐滋
<b>作品名</b>	タイ国への区画整理技術移転に関する実証的研究
<b>授賞理由</b>	<p>本研究は、タイ国における区画整理法制定までの日本側の技術協力について、単なる技術移転の視点だけでなく、制度(システム)全体の移転であるとの視点から体系的にその経験を整理・考察したものである。とりわけ、同じ区画整理法であるとはいえ、タイ国独自の文化や法制度、土地システム、コミュニティによっていかにタイ国らしい区画整理法に結実したかが、簡潔な文章によってわかりやすく整理されている点が特徴である。内容は文句無くおもしろい。また、翻って、今まで空気のような存在だった日本の区画整理技術・法制の独自性も改めて新しい視点から理解できるという副次的効果も得られる研究成果である。</p> <p>なお、最後のほうで、区画整理が確立しなかった国、ランドプーリングとして普及している国などの対比の中でタイ国を位置づけている点も、学術的成果として好印象を持てた。筆者も述べるように、タイ国での区画整理事業の普及を考えるとまだ緒についたばかりである。アジア以外の国々への区画整理技術の移転を考えると、さらに研究課題は発展しそうである。こうした点も積極的に評価し、論文奨励賞としてふさわしいものと判断する。</p>

**論文奨励賞**

<b>受賞者</b>	廣井 悠
<b>作品名</b>	都市空間における防災対策の行動モデリングと制度設計への応用
<b>授賞理由</b>	<p>受賞論文は、地震に対する都市防災対策の根幹をなす建築物の耐震補強対策を主たる対象として、オペレーションズリサーチの手法を駆使し、個々人のリスク認知と防災対策行動のメカニズムについて社会制度（耐震補強助成、地震保険等）を踏まえて数理モデルとして記述し、住宅の改善行動の選択確率を理論的に導出するとともに、関連する公的支援等の社会制度について検討を行ったものである。防災対策に関する社会制度の効果について、このように数理モデルに基づいて定量的に検証した研究は希有であり、都市の安全性に関する制度を設計するに当たって、先駆的な研究として高く評価でき、また、耐震補強に留まらず、今後の防災施策に対して広い適用性が考えられる優れた研究である。よって、本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞にふさわしい内容を十分に有していると考えられる。</p>

計画設計賞	
受賞者	兵庫県豊岡市 市長 中貝宗治 早稲田大学 教授 後藤春彦 かめ設計室 羽渕雅己 梵まちづくり研究所 吉田道郎
作品名	城崎温泉「木屋町小路・三十三間広場」プロジェクト
授賞理由	<p>このプロジェクトは、旧城崎町がホテル跡地の土地を取得して、住民参加のもとに町の活性化を図るために開発した施設である。</p> <p>この施設は、城崎温泉街のほぼ中央に位置し、道を挟んだ四社神社とともに、参道をふくんだかたちで三十三間（約 60m）の広場を作るとともに、木屋町小路と名付けた路地空間を設けたものである。川沿いの道からの回遊性を確保し旧市街地との連続性を創出し、新ビジネスを思わせる業種を取り入れ、また和みの路地空間を設けており、市街地に新鮮さを醸している。</p> <p>大谿川という修景空間に連続的に三十三間広場が現れると、比較的混み合った市街地の中では、開けた空間の開放感が楽しめる。</p> <p>雪が残るこの時期にありながら、驚くほどたくさんの若い女性やカップル、そして中高年の連れ合いがこの空間を楽しんでいた。</p> <p>このように、このプロジェクトは、城崎温泉街の核として、町の活性化にも大きく寄与していると思われる。よって、このプロジェクトは十分計画設計賞に値するものである。</p>

日本都市計画学会 功績賞・国際交流賞受賞者

(受賞者敬称略)

<功績賞>

梅本 正紀 元（株）環境開発研究所顧問  
竹内 伝史 岐阜大学名誉教授

<国際交流賞>

鳴海 邦碩 大阪大学名誉教授  
金 英模 Professor, Dankook University  
(Young Mo Kim)

## 日本都市計画学会

### 功績賞・国際交流賞 選考経過

2011年日本都市計画学会功績賞・国際交流賞は、理事会のもとに設置された表彰委員会（特別功労表彰選考分科会）が、理事・評議員から候補者の推薦を受け、選考分科会で慎重に検討した。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、功績賞2名、国際交流賞2名の受賞が決定した。

なお、各賞の対象の種類は以下の通りである。

---

#### 各賞の対象内容

##### 功績賞

長年にわたって、都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者で、その貢献が、社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

##### 国際交流賞

長年にわたって、都市計画の国際的交流に携わり、海外諸国との交流並びに啓発普及と人材育成に貢献した者（外国人・日本人）を対象とする。

<b>功績賞</b>	
<b>受賞者</b>	<b>梅本 正紀</b>
<b>授賞理由</b>	<p>梅本正紀氏は、都市計画学会九州支部幹事、評議員、九州支部顧問として、本会の設立、運営に多大な貢献をなされました。</p> <p>氏は、当時前例が少なかった民間再開発と公営住宅建設の合併施行による長崎市千歳地区市街地再開発事業（1978年-1988年 再開発コーディネータ協会高山英華賞受賞）をはじめ、千代地区市街地再開発事業（福岡市 1978年-1988年）、福岡都心構想（1986年-1988年）、天神地区市街地再開発事業（福岡市 1989年-1990年）、福岡市公共スペース景観ガイドライン（福岡市 1993年）、小倉駅北口開発構想（北九州市 1989年-1991年）、熊本駅前地区市街地再開発事業基本計画（熊本市 1982年-1983年）、大分駅北側西地区市街地総合再生計画（大分市 1992年-1995年）等、九州の主要都市における数多くの都市計画と設計実務を民間事業者として官民連携して手がけ、プロジェクト完成の中心的役割を果たされました。さらにその経験を活かして福岡県街なみアドバイザー、福岡県まちづくりアドバイザー、長崎県空港将来構想検討委員会委員、博多駅前通り活性化協議会アドバイザーなどを歴任し、九州の都市計画の指導、助言に広く関わられてきました。</p> <p>特に、学会九州支部の設立にあたっては、九州における建築系都市計画コンサルタントの草分けとしての立場から、多くの民間企業に積極的に参加を働きかけ、支部の発足とその活性化におおいに貢献されました。ここに、学会および社会に対する氏の活動実績を鑑み、日本都市計画学会功績賞を授与するものであります。</p>

## 功績賞

受賞者 竹内 伝史

### 授賞理由

竹内伝史氏は、長年にわたり、都市計画および交通計画、交通政策などの分野で理論研究ならびに実務への応用に関する研究を行うとともに、日本都市計画学会および都市計画の発展に多大な貢献をなされました。

氏は名古屋大学および中部大学、岐阜大学において教育研究に携わり、多くの都市計画技術者を輩出し、研究成果を公表されました。また、著書の中には、多くの大学で教科書として採用されているものもあります。学会活動では、日本都市計画学会の評議員、理事、副会長を務められました。中部支部の設立時（1990年）から運営に深く関与しており、幹事長、副支部長、支部長（3年間）として中部支部の活動の充実に大きな成果を残されました。その他、土木学会、日本都市学会、日本計画行政学会、航空政策研究会などでも要職を歴任されました。

社会的活動においても都市計画の発展に多大な貢献をなされました。例えば、岐阜県・名古屋市・春日井市の都市計画審議会会長、名古屋市交通問題調査会会長、中部空港調査会専門委員会副委員長など各種審議会において指導的役職を歴任されております。また、中部国際空港の開港に関しては構想段階から深く関与しており、同空港の基本構想・全体像の策定から同空港ユニバーサルデザイン研究会（座長）などの運営の細部に至るまで様々な助言指導されました。

以上のように、竹内氏は、日本都市計画学会の活動ならびに都市計画分野の学術、教育、社会的活動の分野において、都市計画の発展に顕著な貢献があり、日本都市計画学会功績賞を授与するものであります。

## 国際交流賞

受賞者 鳴海 邦碩

### 授賞理由

鳴海邦碩先生は、1970年に京都大学大学院修士課程工学研究科建築学修了後、兵庫県に勤務され、その後、1979年より大阪大学において都市計画・都市環境デザインの分野の研究・教育活動を行われてきております。とりわけアジアを中心とした国際的な活動に数多く参画し、国際交流を通じて各国及び日本の都市計画・都市環境デザイン分野における研究・教育に多大なる貢献をされております。

研究・教育に関する業績として、南米・ボリビアの首都ラ・パスにおける都市調査、インドネシアの古都ジョグジャカルタにおける都市集落調査など、フィールドサーベイを実施し、この分野の嚆矢となるとともに、各国、各地域の民族や地域の文化、宗教を踏まえた都市空間のあり方などについて、大きな研究業績を上げられました。

大阪大学に在職中の33年間で指導された留学生は10ヶ国50人を超え、各国の都市環境問題に関する調査・研究を実施するとともに、多くの卒業生が母国の大学や行政、研究機関の要職で活躍しており、アジアにおける都市計画及び都市環境デザイン分野の発展に大いに貢献されています。また、著書の「景観からのまちづくり」、「都市デザインの手法」はそれぞれ韓国語で出版され、大きな影響を与えてきております。

さらに、兵庫県三田市において開催された「21世紀の都市づくり三田国際会議」や、神戸市で開催された「国連防災世界会議（阪神淡路大震災総合フォーラム）」など、数多くの国際会議の座長を務めるなど中心メンバーとして参画され、学際的な国際交流活動に貢献をされております。

以上のように、研究・教育、国際交流活動において、これまで多大なる貢献を果たされてきており、ここに日本都市計画学会国際交流賞を授与するものであります。



<b>受賞者</b>	<b>金 英模 (Young Mo Kim)</b>
<b>授賞理由</b>	<p>金英模先生は、現在壇国大学名誉教授を勤めるとともに、大韓国土・都市計画学会長（2000－2004）、大韓国土・都市計画学会の国際委員長（2004-2006）などを歴任し、韓国のプランナー協会や地方自治体の研究へのアドバイザーを務められ、長年にわたり実務、研究、教育に努め、韓国の都市計画に多大の貢献をされました。</p> <p>大韓国土・都市計画学会の会長として勤められていた時期においては、日韓交流の実現を図るため尽力をされ、日韓台都市計画シンポジウムにおいても友好的に交流されました。</p> <p>また、地方都市機能特性に関する著作（1990年6月）、都市経営戦略による Agropolitan 開発（2003年12月）、現代の都市計画立案者のための持続可能な都市開発・新しい理論にもとづく戦略的方向（1995年5月）など、数々の著作を公表され、都市計画の啓発に活躍されております。</p> <p>以上のような氏の果たしてきた貢献に、日本都市計画学会国際交流賞を授与するものであります。</p>

日本都市計画学会 2010年 年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

経路探索行動からみる都市空間把握の文化的差異

佐野 由有・伊藤 香織

自治体首長を対象とした都市デザイン教育に関する研究

—米国における都市デザイン市長協会(MICD)の活動に着目して—

中島 直人

ミクロネシア島嶼パラオ共和国における集落の文化的景観に関する研究

飯田 晶子・野口 翠・大澤 啓志・石川 幹子

環境地域通貨とモビリティマネジメントの連携実施による低炭素社会づくりと地域活性化の可能性

神田 佑亮・松村 暢彦・藤原 章正

## 日本都市計画学会

### 2010年 年間優秀論文賞 選考経過

社団法人日本都市計画学会では、当該年に発表された発表会論文及び一般研究論文に限定して、優れた内容の論文を表彰するための枠組みとして、「年間優秀論文賞」を新たに設置した。これは、学術委員会が当該年の1月から12月に発表された発表会論文及び一般研究論文の中から優れた内容を有する論文を選考・推薦し、理事会に諮り決定し、表彰するものである。

2010年は、発表会論文144編・一般研究論文20編、計164編を対象とし、学術委員会内に年間優秀論文賞選考ワーキンググループを設置し、慎重に検討の結果、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、4編の授賞が決定した。

---

#### 表彰対象

1. 表彰対象

論文

2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の1月から12月に発表された発表会論文及び一般研究論文 全編

<b>論文名</b>	経路探索行動からみる都市空間把握の文化的差異
<b>著者</b>	佐野 由有・伊藤 香織
<b>授賞理由</b>	<p>本論文は、外国人観光客の誘致や国際競争力のある観光地づくりに寄与する情報提供方法を検討したものである。外国人観光客に随行し、確信度の高い情報内容の種類と情報収集のタイミングなど詳細な調査によって、以下の有用な知見を得ている点が評価できる。(1)外国人は移動途中で日本人以上に経路案内文を重視していることと、日本で提供される地図では、描かれている道路相互が交わる角度や幅員差を実空間と照合することが、外国人には難しいことが明らかにされた。(2)移動時における現在位置の確認は、日本人のように右左折する交差点だけでなく、交差点を直進する途中においても確認を行っているため、標識などの情報版の設置位置は、交差点を右左折直進による通過中いずれの場合も確認可能となるように考慮する必要があることが明らかにされた。以上の成果により、国際競争力のある観光地づくりや地域の活性化に貢献できる研究として評価できる。</p>

<b>論文名</b>	自治体首長を対象とした都市デザイン教育に関する研究 －米国における都市デザイン市長協会(MICD)の活動に着目して－
<b>著者</b>	中島 直人
<b>授賞理由</b>	<p>自治体首長の都市デザイン教育という先進的な領域に踏み込んでおり、都市空間の総合的なデザインを行う体制構築を考えるうえで極めて示唆に富む論考である。米国の都市デザイン市長協会の理念・方針、手法、体制、財政的側面について、25年間の活動を明瞭に整理しており、資料追求や相互の関連付けの作業も模範的である。特に現在進行形にある同協会の活動の軸となるセッションについては、非公開で開催されるなど制約があるなかで、そのプログラムや参加者構成、市長＝専門家間の双方向啓発の仕組みなどを明らかにしている。そのうえで、同協会によるフォローアップの仕組みや他組織との連携構築という着眼点の必要性を述べている。自治体首長を対象とした都市デザイン教育に関して、本論文が今後も有益な情報発信源となり得るものと評価でき、優秀論文集に相応しいものと判断される。</p>

<b>論文名</b>	ミクロネシア島嶼パラオ共和国における集落の文化的景観に関する研究
<b>著者</b>	飯田 晶子・野口 翠・大澤 啓志・石川 幹子
<b>授賞理由</b>	本研究は、近年、注目される文化的景観の概念を用い、独自の環境を持つパラオ共和国バベルダオブ島に関する景観の構成を解析したものである。第一に評価すべき点は、熱帯地域の厳しい条件の下で緻密なフィールド調査を展開した努力についてである。特に植生を面的な踏査によって明らかにした点は特筆に値する。第二に評価すべき点は、植生分布を中心に集落空間構造（文化的景観の構造）を、生業、生活との関係を踏まえつつ、明らかにしたことである。国内の既往研究では、大雑把な植生と土地利用によって捉えた集落空間構造に関するものが散見されるが、詳細な植生分布からこれを明らかにした研究はほとんど見られない。熱帯地域、パラオ島嶼地域の特異性、独自性を考察するために、関連する集落空間の既往研究（例えば沖縄島嶼地域など）のレビューと、これらとの比較が今後の課題として挙げられる。

<b>論文名</b>	環境地域通貨とモビリティマネジメントの連携実施による低炭素社会づくりと地域活性化の可能性
<b>著者</b>	神田 佑亮・松村 暢彦・藤原 章正
<b>授賞理由</b>	本論文は、環境配慮型の中心市街地での買い物行動を誘発しうる「環境地域通貨」のシステムを用いながら、自家用車から公共交通等への交通手段転換を促すモビリティマネジメント（MM）を展開することを通じて、当該地域を抜本的に低炭素化しようとする野心的な取り組みを社会実験として行い、その効果を実証的に明らかにしたものである。評価できる点としてはまず第一に、上記のような「地域通貨システム」と「MM」の融合は、極めて大きな有用性をもたらさしうると期待される一方で、世界的に類例の無い野心的な取り組みであり、その可能性を提案すると言う点を非常に高く評価することができる。第二に、その有効性を、実証データを用いながら評価しており、交通行動のみならず、買い物行動にも変容を及ぼしている点を明らかにしている点もまた、高く評価することができる。